審査委員長講評

平成２７年度 第５８回 千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学の部】が、千葉市科学館（きぼーる）を会場に行われました。市内各小中学校から出品された約１，０００点の科学論文および科学工夫作品が集まり「科学都市ちば」にふさわしい規模と内容の展覧会となりました。

理科教育においては、児童・生徒が自ら問題を見いだし、主体的に問題解決を図っていく力を育成していくことが求められています。学校で学んだことを発展させて研究したり、生活を見つめ直し工夫していくことは、この資質・能力をさらに高める有意義な取り組みであると考えます。

本展覧会には、児童・生徒の皆さんの、苦労してまとめ上げた“科学論文”と夢のある“科学工夫作品”が集まりました。どの作品にも、身近な自然の中に疑問や課題を見つけ追求する姿勢や、生活を楽しく豊かにしようとする工夫が見られました。

９月１９日(土)～２３日(水)の５日間にわたり開催されましたが、連日多くの児童・生徒、保護者、市民の皆様が訪れ、作品を鑑賞していました。開催期間が例年よりも長かったため、参観者が分散し、見やすい展示となりました。また1F アトリウムでは、理科主任会の先生や出品者本人が作品について紹介する場を設けましたが、内容がよくわかると大変好評でした。

今年度の作品の傾向を簡単にまとめますと以下のようになります。

科学論文

小学校…身近な自然現象における不思議をテーマに、自分なりに実験方法を工夫し解決しようと努力している論文が多く見られた。実験で得られた結果を考察に十分生かし切れていない研究も見られたので、指導する上での今後の課題としたい。

中学校…興味関心のあるテーマに対して継続して研究に取り組んでいる作品が多い。また優れた作品の多くは、対照実験の設定がしっかりできており、豊富なデータを表やグラフにまとめ結論に結び付けている研究が多い。

科学工夫作品

小学校…低学年では、身近な材料を利用した楽しい作品が多く、高学年になるに従い、生活に役立つものや学習からヒントを得たものが多くなっている。ネットからアイデアを得たものも多いが、模倣に終わらないよう、自分なりのアイデアをそこに加えたい。

中学校…身近な題材をもとに工夫した作品が多く、実用性の高い作品が目立った。付属の使用書や解説書が付いたものが多く、製作者のこだわりを感じる作品が多く見られた。

さらに１０月に行われた千葉県児童生徒・教職員科学作品展に千葉市総合展覧会の代表作品が、千葉県知事賞や千葉県教育長賞、千葉市教育長賞、千葉県発明協会会長賞など、大変優秀な成績を収めました。これは児童・生徒の皆さん自身の努力と、保護者の皆様や理科担当の先生方の協力や努力の成果です。こうした成果を土台にして、ますます千葉市の理科教育が発展していくことを願っています。

結びに、本科学論文集の作成に当たってご協力いただいた児童・生徒の皆さんや保護者の皆様、またご尽力いただいた担任や理科担当の先生方に感謝を申し上げます。自然事象の不思議さや、すばらしさ、それに取り組む児童・生徒の皆さんの生き生きとした活動が見て取れるような作品に、来年も出会えることを期待して講評と致します。

千葉市総合展覧会科学部門　審査委員長
千葉市立あすみが丘小学校長　髙井道夫